

# 東松島復興推進員だより(第 39 号)

東松島市地域復興推進員(JICA 東北)

京野 宏美

皆さんこんにちは。今回は、東松島市が協力しているインドネシアでの復興支援プロジェクトの一環として実施された東松島市内での研修について報告させていただきます。

## 【インドネシア国中部スラウェシ州復興計画策定及び実施支援プロジェクトについて】

2018年9月28日、インドネシア共和国の中部スラウェシ州を震源とするマグニチュード7.5の大地震が発生し、地滑り、津波、液状化など甚大な被害が生じました。

JICAは2019年1月から、インドネシア政府とともにスラウェシ島の復興計画の策定や実施に協力する「中部スラウェシ州復興計画策定及び実施支援プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトの中では、東日本大震災からの復興の取組みや経験、教訓を日本で学ぶ研修なども行われています。今年、宮城県東松島市でも2回研修の受入れを行いました。

## 【第1回本邦研修～防災の取組みを学ぶ～】

6月19日、2日間の日程で14名の行政職員が東松島市を訪れました。初日は、市役所で市の復興まちづくりについて講義を受けたのち、市内の防災備蓄倉庫や、震災復興伝承館、沿岸部の防潮堤や防災盛土など津波への多重防御の取組みを視察しました。また、震災後の防災集団移転（高台移転）が行われた野蒜ヶ丘を訪問するなどし、研修員らはたくさんの写真を撮りながら、各訪問場所を興味深く見回っていました。

翌日は、震災後のまちづくりにおいて、市が取り組んだ住民との合意形成について講義を受け、意見交換を行いました。津波により市街地の63%が浸水、全世帯の約73%が家屋被害を受けた東松島市では、復興計画の策定や集団移転を行うにあたり、行政と地域住民が幾度も話し合いを重ねながら復興を進めてきました。講義において、合意を図ることで心をつなげて復興に邁進してきた東松島市の事例が伝えられると、研修員から様々な質問や意見が活発に飛び交いました。



東松島市の防災備蓄倉庫。研修員たちは担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。

## 【第2回本邦研修～産業復興を学ぶ インドネシアの復興に東北・東松島の「人のちから」を～】

第2回本邦研修は、11月7日～9日に行われました。研修員14名が来日し、第1回本邦研修と同様に東松島市の復興のまちづくりの講義や視察の他、今回の研修では、産業復興に取り組む市内の企業や団体を訪問、その取組みを学びました。また、被災した小学校跡地を利用した防災教育体験施設「KIBOTCHA」（キボッチャ）を訪問し、子ども世代を含めた全世代での防災教育の重要性についても学びました。

研修の最後には、研修員代表の国家開発企画庁スメディ・ムルヨ氏から発表がおこなわれ、「東松島は、対話を重ねることで人を動かすことのできる政策を実施してきた点が素晴らしい。復興のためには、イ

ソフらはもちろんだが人間関係の構築についても重視し、これから取り組んでいきたい」と述べられました。

これに対し東松島市職員川口氏より「私たちにできることがあれば協力していきたい。インドネシアの知見もいただきながら、ともに復興への取り組みを進められればと思う。」と伝えられ、研修が締めくくられました。



東日本大震災当時の避難の様子を聴く研修員たち。被災した旧・野蒜小学校を防災体験学習施設として活用した KIBOTCHA にて。



研修員代表スメディ・ムルヨ地域開発局長（左）の発表に対してコメントする市復興政策課の川口主任（右上）。

### 【東北の復興と国際協力～JICA 新人職員の感想～】

6月の第1回研修には、JICA 新人職員が同行し、私たち推進員とともに研修運営支援を行いました。東日本大震災の被災地訪問は初めてという二人に、開発途上国の復興支援に東松島市の経験・知見が共有されるという現場に立ち会った感想をもらいましたので、その一部を紹介させていただきます。

防潮堤建設をはじめとした取り組みに見られる東松島市の復興のスピード感、そして、他国で起こった災害の経験を互いに共有して相互復興の取り組みを行っている点に、大変衝撃を受けました。またインドネシアの行政官の方が積極的に東松島の復興について質問しているのを見て、こんな風に「世界が、復興や発展に協働していく時代」に進んでいってほしいと感じました。そして、国際協力をフィールドに働いている私自身としても様々な方々と協働し、より良い世の中にしていきたいと改めて思いました。

（調達部 本田 康平さん）

今回私は東松島市で、震災を経験した方からはじめてお話を伺い、過去の震災の教訓を代々継承していたことで早急に避難できた方々がいらしかったことを知りました。そして、過去の経験を教訓として次の世代につなげることが非常に重要だと学びました。東松島市は JICA 事業に参画していただき、震災の経験を開発途上国に伝える取り組みを行っています。震災経験を世界と共有することは、同じく震災を経験した国の課題解決や、被害を未然に防ぐことにつながるだけではありません。日本において活用できる技術やノウハウを、海外から取り入れることにもなり得ます。こうした取り組みが、開発途上国のみならず、東松島市への貢献にもつなげることができればと思います。

（アフリカ部 橋本 真希さん）

このインドネシア復興支援プロジェクトは東松島市からの協力も得ながら 2021 年 11 月まで続きます。東松島市では現在も復興を進めるために市も地域の方々も懸命に取り組んでいます。私たち推進員は、この東松島市の経験や知見、現在の課題等を、今後の市内研修の支援等を通じて国内外に共有することで、世界の「より良い復興 (Build Back Better)」へつなげていきたいと思ひます。

以上